知っていますか？

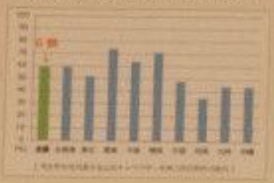
あなたのまちのご当地キャラ

全国基礎自治体のキャラクターを勝手に分析してみました

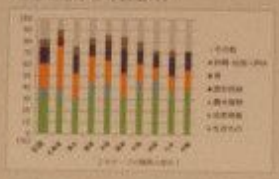
荒尾章子・増澤直・今野尚美・髙木巳佳　（株式会社地域環境計画）

よく言う「ゆるキャラ」、「ご当地キャラ」、（ここでは正式？にご当地キャラクターと呼んでおきます）が日本全国で増殖しています。中でも区市町村が管理したり、承認したりしている公式キャラクターのある自治体数は **1,028** もあります。これは基礎自治体の数（平成29年）が1,741ですから、**あよそ半数の 6 割 が何らかのご当地キャラクターをもみ出していることになります。**（細かいことを言うと、大阪市のように部署ごとにキャラをつくりすぎて大変な状況になっているところもあり、そういう自治体では一番代表的なものを選んでいます）

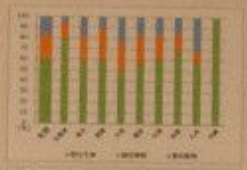
これだけ増えまくったご当地キャラ、いったいどんな背景や地域の期待を背負わされて生まれてきたのでしょう。私たちは、その傾向を調べてみることにしました。一応、生物多様性や景観を専門とするものとして、"少しだけまじめ" に分析しています。

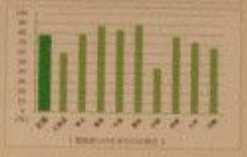


ご当地キャラクターのモチーフを見てみると、全体で【生きもの】を選ぶ傾向があり、その中でも【野生生物】をモチーフにする自治体が多いことが分かりました。（もっと多いと思いましたが、それでも３分の１の自治体）



野生生物の中でも第一級の希少な生きものが選ばれているかと思いましたが、タヌキやウグイス、ホタル、カブトムシ、アユなどの里地里山に生息するふつうの生きものが多いことが分かりました。





<方法>

- 土地利用細分メッシュ（国土数値情報）を用いて、居住地区（DID地域）と市街地の景観を区分。
  ※景観区分には「平成 14 年度環境アセスメントベースマップ整備事業 環境アセスメントベースマップ整備マニュアル」平成 15 年 3 月、環境省総合環境政策局環境影響評価課に景観区分の方法を参考にした。
- 野生生物をモチーフにしている自治体と比較

使用データ：国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ
ArcGIS データコレクション